

第3回 矢作ダム堰堤改良技術検討委員会

－ I. 委員会概要 －

目次

1	委員会概要	1
2	委員会検討内概要	2

平成18年3月24日

国土交通省 中部地方整備局

矢作ダム管理所

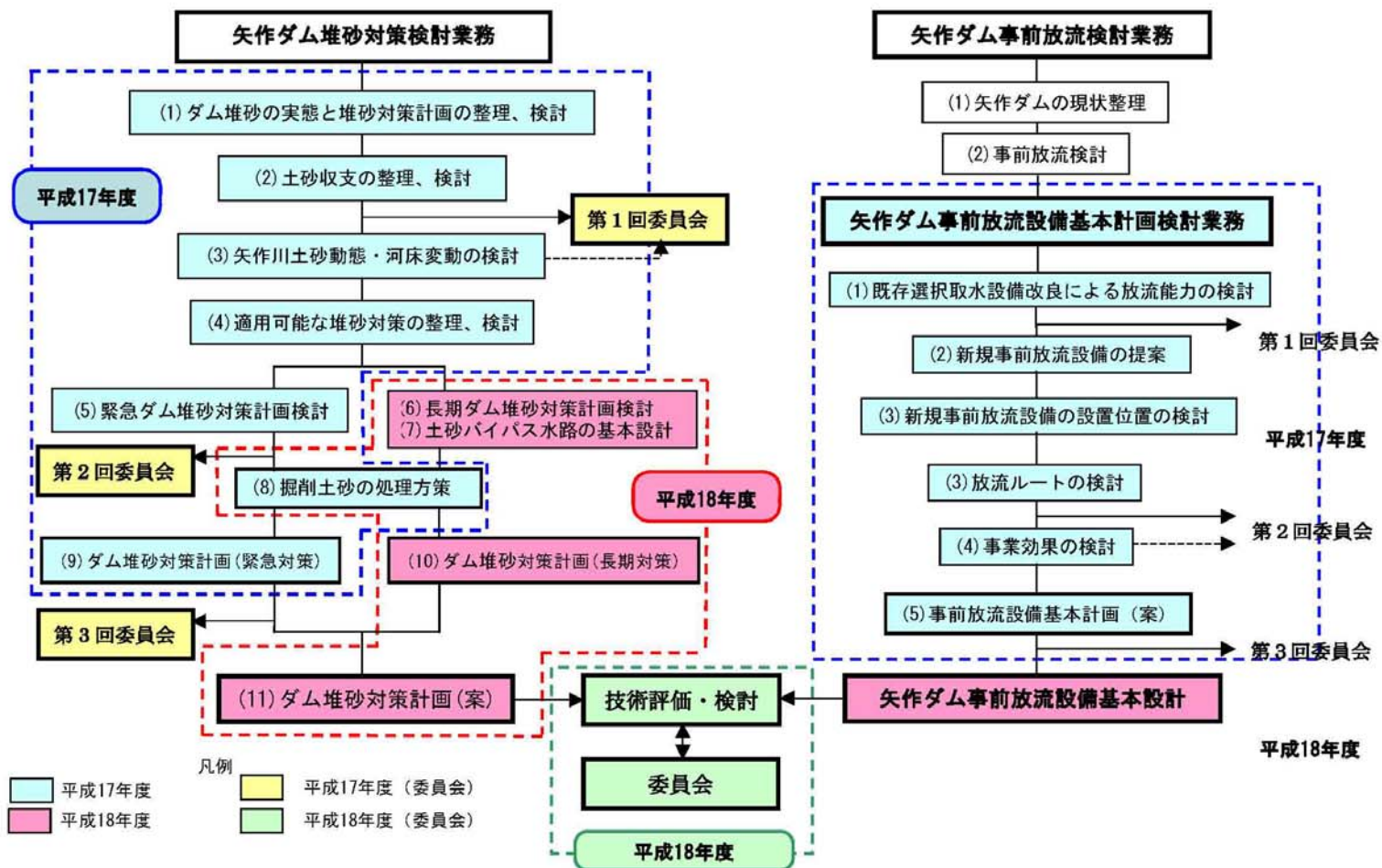
1 委員会概要

矢作ダムは、昭和46年4月の運用開始以来30年以上が経過し、この間、幾たびもの洪水、濁水を経験しその使命を果たしてきたが、一方でダム貯水池内外において、環境の変化が生じてきている。

これらの自然環境、冷濁水、ダム堆積土砂等の変化を把握し、今後の矢作ダム貯水池を総合的に管理するために、矢作ダム貯水池総合管理計画検討委員会（平成14年8月～平成17年2月まで8回の委員会を開催（以下「委員会」という）において、冷濁水対策・ダム堆砂対策等の対策の検討が行われてきた。

また、平成17年度には、矢作ダム堰堤改良事業が採択され、ダム堆砂対策によるダム機能回復と事前放流設備設置によるダム機能の向上を図ることになった。

本委員会では、ダム堆砂対策及び事前放流設備設置に関する技術的課題について、学識経験者、関係者の指導・助言を得ることを目的に設立するものである。



矢作ダム堰堤改良技術検討委員会 検討フロー

2 委員会検討内容概要

本検討委員会は、「ダム堆砂対策計画」、「事前放流設備基本計画」に関する検討を行うものである。委員会は平成17年～18年の2年間を予定している。主な検討内容は、以下に示す通りである。

(1) ダム堆砂対策検討

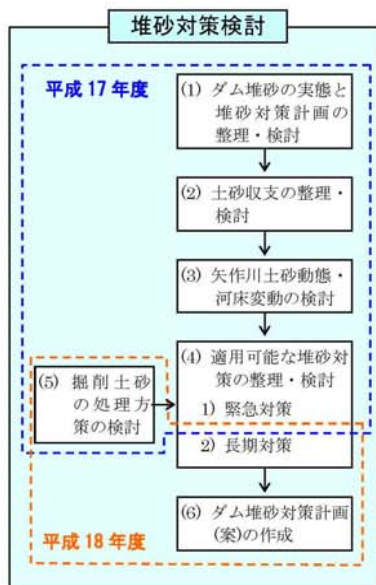
平成14年度から平成16年度までに開催された「矢作ダム貯水池総合管理計画検討委員会」での検討結果を踏まえ、本検討委員会では、緊急的、長期的観点に立った矢作ダムにおけるダム堆砂対策計画(案)の作成を行うことを目的とし、以下に示す主要な議題について検討を進める予定である。

○平成17年度予定：

- 「矢作川土砂計算モデル」について
- 「矢作ダム堆砂対策メニュー（緊急的）」について
- 「緊急的ダム堆砂対策計画（案）」について
 - 治水容量内の土砂排除計画、貯砂ダムの機能回復、貯砂ダムの嵩上げ改修 等
- 「掘削土砂処理方策（案）」について
 - 下流河道への投入可能性、近隣地区への土砂供給、海岸・海域への土砂供給 等

○平成18年度：

- 「長期ダム堆砂対策計画（案）」について
 - 土砂バイパス水路、密度流排砂、貯水池中流・下流における堆砂対策 等
- 「土砂バイパス水路基本計画（案）」について
- 「矢作ダム堆砂土砂対策（案）」について



(2) 事前放流設備基本計画検討

平成16年度より継続検討されている事前放流操作時の最大放流量に対応するため、既存施設の有効利用を含め事前放流設備に関する基礎的な検討を行い、事前放流設備の基本設計を行うことを目的とし、検討会では以下の項目を主要な議題として検討を進める予定である。

○平成17年度予定：

- 「事前放流設備基本計画（案）」について
 - 既存選択取水設備の改良（案）及び新規事前放流設備の必要性検討
 - 新規事前放流設備の設置位置、放流ルートを検討

○平成18年度予定：

- 「事前放流設備基本設計」について
 - 堤体削孔の可能性検討
 - 事前放流設備の形式検討

	第1回 委員会 (平成17年12月27日)	第2回 委員会 (平成18年2月)	第3回 委員会 (平成18年3月)
堆砂対策検討	(1) ダム堆砂の実態と堆砂対策計画の整理・検討	昨年までの結果とりまとめ	堆砂対策の目標の明確化
	(2) 土砂収支の整理・検討	緊急対策の対象土量を明確にする	流入土砂量の妥当性評価
	(3) 矢作ダム土砂動態・河川変動の検討	—	検証結果の報告
	(4) 適用可能な堆砂対策の整理・検討	方向性の提示	検討結果の中間報告
	(5) 掘削土砂の処理方策の検討	基本的な方向性の提示	調査結果の中間報告
事前放流検討	(1) 矢作ダムの現状整理	昨年度までの結果のとりまとめ	—
	(2) 事前放流検討	基本的な方向性の提示 最大放流量検討結果の報告	事前放流検討結果の報告
事前放流設備基本計画検討	(1) 既存選択取水設備改良による放流能力の検討	検討結果の報告（既存選択取水設備、コンジット）	前回の指摘を踏まえた既存施設の改良方策の検討
	(2) 新規事前放流設備の提案	基本的な考え方（放流ルートの概略イメージの提示）	新規事前放流設備の提案
	(3) 新規事前放流設備の設置位置の検討	水質面からの設置水深の検討結果の報告	前回の指摘を踏まえ設置水深の設定
	(4) 放流ルートの検討	—	検討結果の報告
	(5) 事業効果の検討	—	検討結果の報告
	(6) 事前放流設備基本計画(案)	—	—

